

Cento50

(チェント チンクワンタ)

Traditional Espresso Machine

取扱説明書



目 次

安全上のご注意	3
主な仕様	6
各部の名称	6
始動方法	8
抽出方法	9
美味しいエスプレッソの作り方	10
抽出湯量の調整方法	11
清掃方法	12
警告について	14
特別なメンテナンス	17
保障とアフターサービス	18
保証書	19

安全上のご注意（安全に関する重要事項です必ずお読み下さい）

本製品を使用する際には、ご使用前に安全上のご注意をよくお読みになり正しくお使い下さい。

表示されているマークの説明



警告

この表示は誤った取扱いすると人が死亡または重傷を負う可能性があることを示しています。



注意

この表示は誤った取扱いすると人が傷害を負ったりその他の人的物的損害が起ったりする可能性が

あることを示しています。

一般的な注意事項



警告

- 製品の分解や修理は認定されたサービスマン以外では絶対に行なわないで下さい。修理や分解組立が正しく行なわれないと、製品が正常に作動せずに水漏れや感電や火災などの原因となります。また、本体を改造することも絶対に行なわないで下さい。水漏れや感電や火災の原因となります。
- 異常が発生した場合には、速やかに電源スイッチを切り、本体の電源コードを抜いてください。そしてすぐに販売店もしくはサービスセンターに連絡をして下さい（電源コードを抜く時には感電をしたり火傷をしたりしないようにして下さい。）
- 本体の内部にある部品や電気配線や配管などには手や体を接触させないで下さい。火傷や感電の原因となります。
- この製品が原因でサーキットブレーカーや漏電遮断機が作動をした可能性があるときには速やかに電源を切り販売店もしくはサービスセンターに連絡をして下さい。そのまま使用すると感電や火災などの原因となります。
- 本体に水がかかったり付近でガス漏れの可能性があったりする場合には直ちに使用を止めてください。ガス漏れの際には使用されているガス器具の注意事項に従って引火や爆発の危険を避けてください。
- 製品を移動する場合には、電源につながれていないこと、本体内部に水やコーヒー豆、コーヒーかすが無く、十分に冷えていることを確認して行なってください。火傷や感電の原因となります。



注意

- 電気製品を使用する際には火事、感電、怪我の危険を避けるために、常に安全のための基本的な注意事項を守ることが大切です。電気製品を取り扱う際の一般的な注意事項に従ってご使用下さい。
- 製品の点検やお手入れをする時には、必ず主電源を切り電源コンセントを抜いて行なってください。感電や火傷怪我の原因となります。
- 電源コードをコンセントへ抜き差しする時には電源コードの取扱いに十分に注意して下さい。また、電源コードに人や物が絡まったり、躓いたり、踏まれたりしないようにして下さい。感電や火災や怪我の原因になります。

- 長時間製品を使用しないときには、本体の電源スイッチを必ず切ってください。また電源プラグをコンセントから抜いてください。専用コンセントをお使いの場合にはコンセントを電源から抜いてください。
- 表面が熱くなっている部分には触れないで下さい。火傷や怪我の原因となります。
- 火事、感電や怪我を防ぐために電源コード、プラグや電気製品を水や液体に浸さないで下さい。
- 子供が電気製品を使用するときは十分に子供を監督し、子供の近くで電気製品を使用するときには、細心の注意を払って下さい。
- 部品の取付け、取り外し又は清掃をする時には十分に温度が下がった状態で行なって下さい。
- コードやプラグが傷んでいたり正常に動かなかったりした時には作動をさせないで下さい。
- 付属品以外のものを使用しないで下さい。火事、感電や怪我の原因になることがあります。
- 野外では使用しないで下さい。
- 電源コードが卓上、カウンター上又は表面が熱くなる場所の上などに垂れ下がらないようにして下さい。
- ガスコンロ、電熱器や熱くなったオープンの上やそばに置かないで下さい。
- マシンの電源スイッチをOFFにしてから電源コンセントからプラグを取り外して下さい。
- 本来の目的以外には使用しないで下さい。
- スチームやお湯が抽出されている時には十分に注意をして下さい。火傷や怪我の原因となります。
- このマシンは 業務用のマシンです。

設置及び据付時の注意事項

警告

- 本体に供給する電源の工事を行う場合には電気設備工事の専門技術者が行き、電源の容量が不足したり設備工事に不備が無いようにして下さい。感電や火災の原因になります。
- 据付を行なう時には本体の電源コードが損傷をしたり、無理な配線をしたりしないようにして下さい。電源コードが傷んだままで使用をすると感電や火災の原因になります。

注意

- 設置及び据付を行なう際には本体を落下させたり倒したりしないで下さい。落下や転倒などにより怪我の原因となります。
- 据付をする場所は平坦で水平な場所で、十分に製品の重量に耐えられる場所に設置して下さい。不安定な場所に設置をすると落下や転倒などにより怪我の原因となります。
- 天然木や天然石の上に置く場合には、マシンの洗浄中に水滴や飛沫が飛散して表面を汚したり変質の原因となることがあります。水や洗浄液飛沫がついても影響の無い材質の上に設置したり、直接当たらない様に保護を行なってください。

- 設置周辺温度が 45℃以上になる場所、直射日光が常に当たる場所、埃や塵が多い場所、湿気が高い場所、振動がある場所などには設置をしないで下さい。内部の電気部品などの故障の原因となります。
- 本体の周囲に熱がこもらない様に周囲の壁や家具や機器などから 10 cm以上離して設置してください。熱がこもると電気部品などの故障の原因となります。
- 凍結の恐れがある場合にはマシン内の水を抜いて下さい。

使用環境条件

気温： 5 – 45℃（凍結の恐れがある場合にはマシン内の水を抜いて下さい。）

湿度： 80% 以下

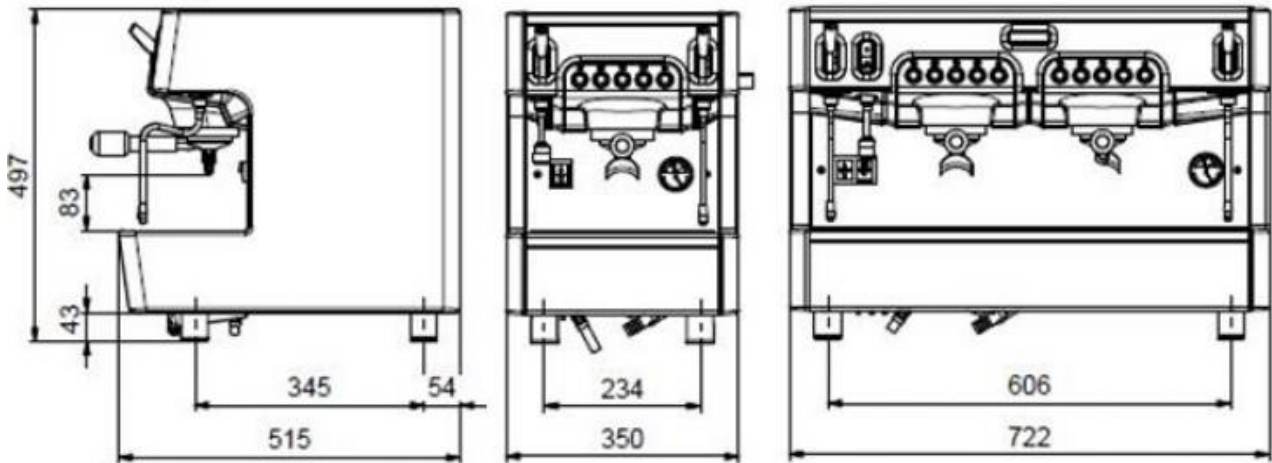
- お湯でなく必ず水を給水してください。
- 水以外の飲料（例えばミルクなど）やミネラルウォーター類は使用しないで下さい。

操作を行なう時の注意事項



-
- スチームや熱湯の抽出操作を行なう前にはノズルの向きに注意をして下さい。火傷や怪我の原因になります。また、使い終わった時には誤操作により噴出した熱湯やスチームを浴びないようにノズルの位置を排水トレイ方向に向けてください。
 - 顔や手に熱湯やスチームがかからないようにノズルの位置に常に注意をして取扱いを行なってください。
 - スイッチや電源プラグを水に濡れた手で操作をしないで下さい。感電の危険性があります。
 - ミルク系統の洗浄は規定どおりに実施してください。洗浄を行わず放置しておくともミルク系統内に残ったミルクに細菌が繁殖して衛生状態を悪化させます。

主な仕様



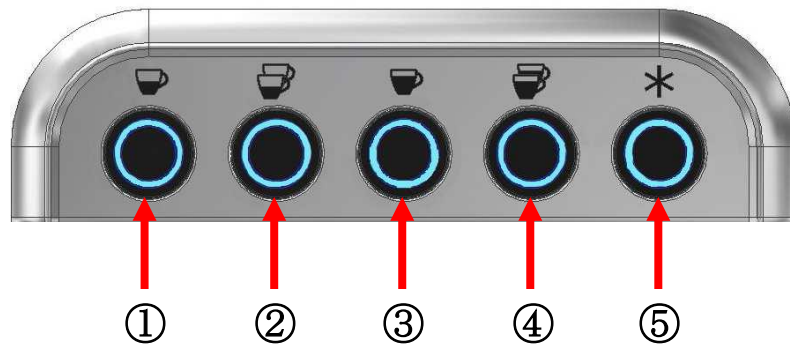
	Cento50 G2	Cento50 G1
幅 (mm)	722	350
高さ (mm)	497	497
奥行 (mm)	515	515
満水重量 (kg)	63	40
ボイラー容量 (リットル)	10.5	4
抽出グループ	2	1
熱湯ノズル	1	1
蒸気ノズル	2	1
標準型タンク・ヒーター (W)	3200	2000
定格電圧 (V)	単相 200	
電気容量	3200W 16A	2000W 10A

各部の名称



※G1 に関しては、ディスプレイが有りません。
抽出パネルも 1 つになります。

抽出操作ボタン (G2 も同様の仕様となります。)



抽出ボタン	機能
①	エスプレッソ 1 杯
②	エスプレッソ 2 杯
③	コーヒー 1 杯
④	コーヒー 2 杯
⑤	※手動抽出 / プログラム

左表のコーヒーメニューは、初期設定時のメニューとなります。尚、マシン設定する事により、変更は可能です。

※手動抽出 ボタンを押すと抽出が始まり、止めたいところでもう一度同じボタンを押します

付属品

	Cento50 G2	Cento50 G1	
ホルダーアッセンブリ (シングル)	1	1	
ホルダーアッセンブリ (ダブル)	2	1	
プレスサー	1	1	
清掃用ディスク	1	1	
清掃用ブラシ	1	1	
給水ホース	1	1	マシンに取付けてあります。
排水ホース (150cm)	1	1	
排水エルボー	1	1	マシンに取付けてあります。
排水ホース バンド	1	1	

Cento50 G2 用



Cento50 G1 用



始動方法

はじめに水道元栓が開いていることとコンセントが電源に差込まれていることを確認して下さい。

1. 主電源スイッチを入れる

本体正面左の電源スイッチを入れます。

するとディスプレイが点灯して、自動的にボイラータンクに給水を行います。

自動給水が終わりますと自動的にヒーターの電源が入ります。

※G2の場合（ディスプレイ付き）

ディスプレイにはボイラー沸かし中の『HEATING BOILER』と表記されます。

HEATING BOILER
XXX°C

2. ボイラー内に溜まった空気抜き操作のため、スチームコックを下げてください。



3. ウォームアップの完了

ボイラーが立ち上がり中、スチームノズルからスチームが少し出始めます。

ボイラー内の空気は抜きましたので、スチームコックを上に戻します。

この時、マシンはまだ設定ボイラー圧力に到達していないため加熱中です。

約 15～20 分経ちますと、ボイラーが沸き上がり圧力メーターのゲージが適正値を示します。

適正値は、圧力ゲージの黄色い針が 1.0 bar 以上を示します。

ボイラー圧力は最大 1.2bar～1.3bar で設定しており、設定圧力になりましたら

ボイラーの加熱は停止します。

※G2の場合

ディスプレイに『SELECT DRINK』と表記され使用可能な状態になります。

SELECT DRINK
XXX°C

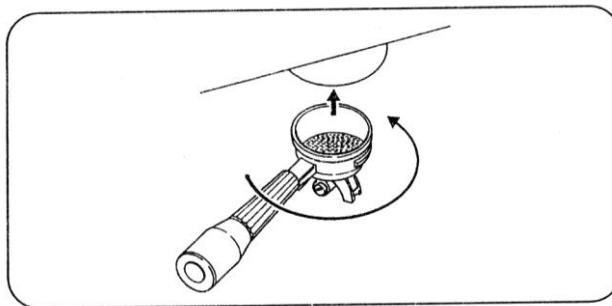
抽出方法

(1) コーヒー抽出

コーヒー粉を入れたホルダーをマシンにセットし、抽出ノズルの下にカップを置きます。
各抽出ボタン①～⑤の何れかを押します。
設定した量のコーヒーが抽出されると、自動的に止まります。

フィルターホルダーをはめるには、下図のようにハンドルの向きを斜め左から
抽出口にはめて右方向へハンドルが正面にきて止まるまで回します。

フィルターホルダーのはめ方



(2) 熱湯抽出

熱湯出口の下にカップを置き、給湯用コックを下に下げます。

G1の場合： コックを下げ、熱湯抽出口から湯を抽出します。コックを元に戻すと止まります。

G2の場合： 給湯ボタンとなり、ボタンを押すことにより熱湯抽出口から設定した量の湯が抽出します。

給湯ボタン



(3) 蒸気抽出


飲料（牛乳など）の加熱は次のように行います。

蒸気コックをゆっくりと下にさげ、それからノズルを飲料に差し入れます。

飲料が温まりましたら、蒸気コックを元に戻します。

使用後は、蒸気コックを少しの間開き、ノズル内に入った液体を空吹きします。

※これは、牛乳等の飲料がボイラーまで吸い込まれてしまうのを防ぐために
非常に重要な操作になります。

注意  立ち上がる蒸気は、非常に熱いので十分に注意してください。
ノズルは非常に熱いので、黒い部分を持つようにしてください。

美味しいエスプレッソの作り方

美味しいエスプレッソを抽出するには、いくつかの抽出条件があります。

抽出時間は1杯（30 cc）20～30秒が理想的です。

抽出が遅すぎたり、速すぎたりする場合は以下の原因が考えられます。

最初に1杯のエスプレッソを作る準備をします。

ホルダー内のフィルターに適量のコーヒー粉を入れ、プレッサーで押さえます。

このエスプレッソマシンには、プレッサー1個、計量スプーン1個が標準付属品になっています。

抽出と挽き目の設定は個々のマシンの状態やどんな味加減のエスプレッソを抽出したいかによって調節します。


コーヒー粉量が多すぎるとフィルターホルダーを抽出口にはめ込むことが出来ません。

逆に少なすぎると、コーヒー粉に水気が多く残ってしまいます。

完璧な味のエスプレッソを作るためには、マシンと共に一定量のコーヒー粉を出すことのできるミルの使用をお勧めします。これによって、エスプレッソの味は一層良くなります。

そして常に挽き立てのコーヒー粉を使用するので、良い味をコンスタントに保つことができるのです。

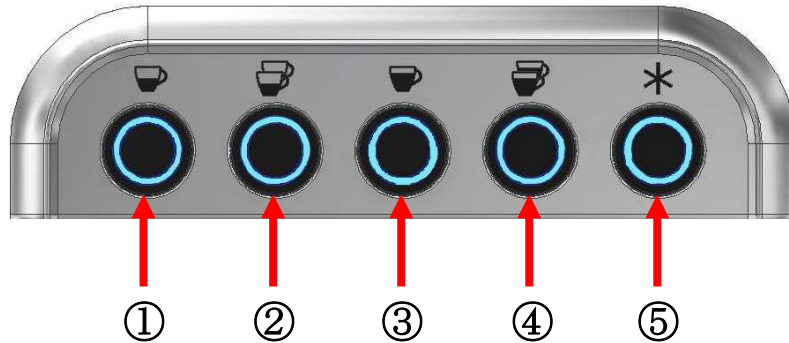
コーヒーの状態	抽出が遅すぎる	抽出が速すぎる
コーヒー粉の量	多すぎる	不十分
コーヒー粉の圧縮	強すぎる	不十分
空気の湿度	高すぎる	低すぎる
ミルの挽き目	細かすぎる	粗すぎる
フィルターの状態	部分的目詰まり、汚れあり	摩耗で穴が大きすぎる

注意）  抽出後のコーヒーカスを捨てる時は、ホルダーを軽く木製等のゴミ容器の縁に打ち付けて下さい。
金属製のものに打ち付けると、フィルターの縁を損傷してしっかりとハマらない様になります。

抽出湯量の調整方法

コーヒー抽出量のプログラム（操作は、G1 及び G2 共に共通です。）

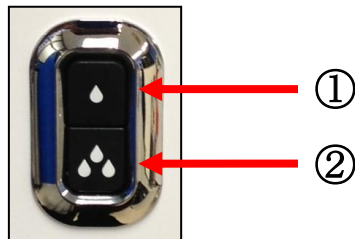
- ① コーヒー粉を入れたホルダーをマシン本体にセットします。
- ② 抽出ボタン⑤を長押しし、約 10 秒後に離します。



- ③ 全ボタンのランプが点滅を始めたら量調整を行いたい抽出ボタン①～④・⑥～⑨を押して抽出を始めます。
- ④ 抽出量が適量になりましたらもう一度同じボタンを押して抽出を止めます。
- ⑤ 自動的にメモリーに記憶されます。

熱湯抽出量のプログラム（操作は G2 のみになります。）

- ① 抽出ボタン⑤を長押しし、約 10 秒後に離します。



- ② 全ボタンのランプが点滅を始めたら量調整を行いたい給湯ボタン①・②を押して抽出を始めます。
- ③ 抽出量が適量になりましたら、もう一度同じボタンを押して抽出を止めます。
- ④ 自動的にメモリーに記憶されます。

清掃方法

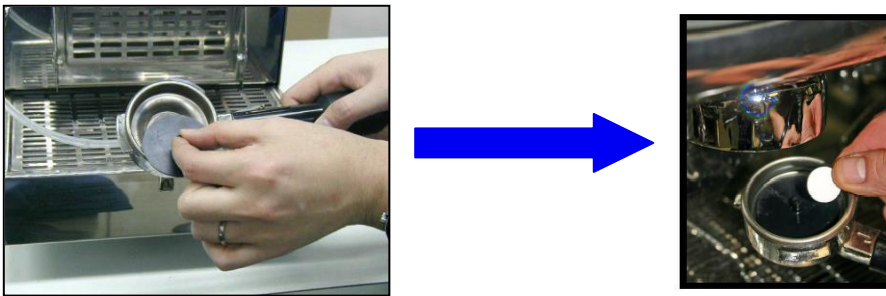
グループとフィルターホルダーの清掃

この清掃は必ず毎日営業終了後に行ってください。

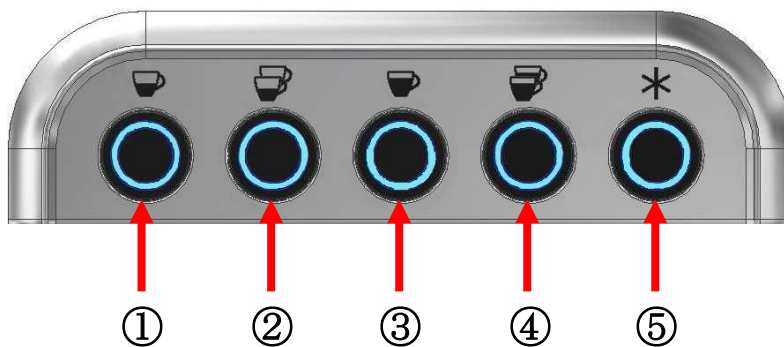
1 グループの清掃

1. 2杯取り用フィルターホルダーの中に付属品の清掃用ディスクを入れます。
2. 清掃用ディスクの上に付属品のマシクリーナー（2g）を入れます。
3. マシン本体にフィルターホルダーをセットします。
4. 抽出ボタン⑤を押し、約10秒間抽出させます。
5. 抽出ボタン⑤のランプが点滅して、5秒程したら再度抽出ボタン⑤を押して下さい。
6. 4～5を5回繰り返し行って下さい。
7. すすぎのためフィルターホルダーを外して、何れかの抽出ボタンを押し、空出し抽出を数回（2～3回）行って下さい。
8. ホルダー取付部のシャワースクリーンを濡れた布巾等で拭いて下さい。

注意）  抽出部を拭く時は高温のため火傷には十分注意して下さい。



抽出ボタン



2 シャワースクリーン及びフィルターホルダーの清掃

1. コーヒーの抽出口に取り付けてありますシャワースクリーン及びホルダーフィルターを付属のブラシで汚れを洗い流します。



又は、フィルターをホルダーから外して水洗いをします。



2. コーヒーがこびり付いている時は、付属のブラシ等で汚れを擦り落とし、布やスポンジで拭き取ります。

(1) ボイラー給水 警告アラーム

このアラームは、以下のようにディスプレイに表示されます。

FILLING UP T.O.

原因：ボイラー給水の段階で、最長給水時間の 12 分を超えても水位がレベルセンサー (SLC) に達しない場合。

結果：マシンが作動しなくなります。

処置：次の手順に従って行います。

- 1) レベルセンサー (SLC) が汚れ、水から隔てられている。
(ボイラーの給水完了をチェックできなくなっている。)
- 2) 水道の断水。
- 3) 水圧が低すぎる。
- 4) 加圧ポンプの故障。
- 5) 給水電磁弁の故障。
- 6) 配線接続の不良 (レベルセンサー (SLC) の配線外れ)

(2) ボイラー温度 警告アラーム

このアラームは、以下のようにディスプレイに表示されます。

TEMPER. PROBE

ケース 1： スチームボイラー内の温度が 131℃の限界値以上に達しています。

結果：ボイラーの加熱は中断されて、全メニューボタンは使用できなくなります。

解決方法：マシンを OFF にする。

再度電源を入れ直し、再びアラームが発生する場合は、電子部品が不具合を
起こしている恐れがあります。

ケース 2： 温度センサーの不具合や断線となると、このセンサーは基板に次の信号を送る。抵抗値 0 オーム

結果：ボイラーの加熱は中断されて、全メニューボタンは使用できなくなります。

解決方法：マシンを OFF にして、温度センサーに繋がるコネクタを確認もしくはセンサーを交換する。
マシンを ON にする。

ケース 3： 温度センサーが不具合の場合、このセンサーは基板に次の信号を送る。抵抗値 154 オーム (ショート)

結果：ボイラーの加熱を中断されて、全メニューボタンは使用できなくなります。

解決方法：マシンを OFF にして、温度センサーを交換する。
マシンを ON にする。

(3) フローメーター（抽出流量）のアラーム

このアラームは、以下のようにディスプレイに表示されます。

FLOW METER GR.X

原因：フローメーターがコントロールボードに時間切れとなる5秒以内に信号を送っていない。

（フローメーター内の流量計測部品が回転していない。）

結果：1. 抽出したボタンのランプが継続して点滅する。

抽出が240秒間のタイムアウトまで、又は何れかの抽出ボタンを押すまで止まらず継続する。

2. コーヒー抽出がされない。

次の事項を点検すること：

1) コーヒー抽出経路に水の供給がされていない。（この場合、コーヒーは抽出されません）

2) グループのフィルターが目詰まりしている。（この場合、コーヒーは抽出されません）

3) グループ電磁弁の不具合（この場合、コーヒーは抽出されません）

4) インレット・フィルターの目詰まり（この場合、コーヒーは抽出されません）

5) フローメーターの目詰まり（この場合、コーヒーは抽出されません）

6) フローメーターの電極部の不具合（この場合、コーヒーは継続的に抽出されます）

7) 電気接続部（コネクタ及びケーブル）の不具合（この場合、コーヒーは継続的に抽出されます）

もし、コーヒー抽出が止まらない（6、7の場合）場合は、同じ抽出ボタンを押す事で停止する事が出来ます。

エラー表示のない、その他の機構

(4) 安全弁の蒸気排出作動

原因：ボイラーの蒸気圧の過昇

結果：蒸気圧が1.7~1.9barに達すると、安全弁が開いて蒸気をマシンの排水トレーに向かって排出します。

処置：次の各部の異常を点検し、修理を行います。

1. 温度センサーの不具合、または汚れによる感知不具合

2. 温度センサーからコントロールボックスまでのケーブルの不具合

3. トライアックの不具合

4. コントロールボックスの制御的不具合

(5) アンチ・サクション弁（反吸気弁）

蒸気コックにはアンチ・サクション弁が装備されており、ボイラー圧力が下がった時ノズル先端に付いたミルクがボイラー内に侵入するのを防止しています。

(6) 逆止弁

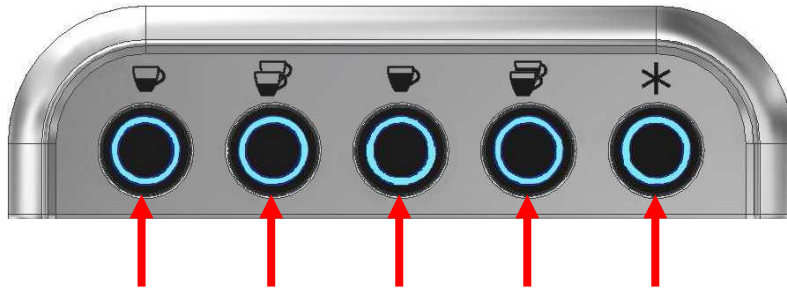
給水電磁弁（EC）とボイラーとの間には、逆止弁が装備されており次の機能をしています。

給水時には水圧で開き、ボイラーへの給水を可能にしています。

給水が終わると弁が閉じて、ボイラー内の湯が蒸気圧で給水回路に逆流するのを防止します。

Cento50 G1 の警告（アラーム）について ディスプレーなしの場合

Cento50 G1 はマシンに何らかの異常（エラー）があった場合、抽出ボタンのランプが点滅して警告（アラーム）をお知らせします。



点滅する理由

① ② ③ ④ ⑤

給水異常	1. マシンに繋がる給水の元栓が閉まっている。
	2. 浄水器の目詰まりによる給水異常。
	3. 給水圧力が弱く、ボイラー内へ給水されない。
	4. 上記以外の何らかで給水されない。
抽出異常	1. コーヒー粉の挽き目が細かすぎて抽出されない。
	2. 抽出シャワー口の汚れによって抽出できない。
	3. 抽出が止まらないで出続ける。
温度異常	1. 温度センサーが規定値を感知できない。

各警告（アラーム）

■ 給水異常

抽出ボタン①～⑤全てのランプが点滅します。

■ 抽出異常

コーヒー抽出で押した抽出ボタンのランプが点滅します。

■ 温度異常

抽出ボタン①・②と抽出ボタン④・⑤が交互に点滅します。

これらの項目を確かめて、電源を入り切りして、もう一度試して下さい。
再び、抽出ボタンが点滅を行う場合は、サービスコールをして下さい。

抽出ボタンのランプ点滅が無い、その他の機構

（1）安全弁の蒸気排出作動

原因：ボイラーの蒸気圧の過昇

結果：蒸気圧が 1.7～1.9bar に達すると、安全弁が開いて蒸気をマシンの排水トレーに向かって排出します。

処置：次の各部の異常を点検し、修理を行います。

1. 温度センサーの不具合、または汚れによる感知不具合
2. 温度センサーからコントロールボックスまでのケーブルの不具合
3. トライアックの不具合
4. コントロールボックスの制御的不具合

(2) **アンチ・サクション弁（反吸気弁）**

蒸気コックにはアンチ・サクション弁が装備されており、ボイラー圧力が下がった時ノズル先端に付いたミルクがボイラー内に侵入するのを防止しています。

(3) **逆止弁**

給水電磁弁（EC）とボイラーとの間には、逆止弁が装備されており次の機能をしています。
給水時には水圧で開き、ボイラーへの給水を可能にしています。
給水が終わると弁が閉じて、ボイラー内の湯が蒸気圧で給水回路に逆流するのを防止します。

特別なメンテナンス

エスプレッソマシンを正しい状態で使用するためには、軟水器/浄軟水器（水の硬度を下げる）のご利用、消耗品の定期的交換（有料）をお薦めします。

各消耗パーツの交換次期は次の通りです。

- ・ ホルダーガスケットを、3～6 ヶ月毎に交換する。
- ・ スチームノズルのジョイント部分のガスケットを、6～12 ヶ月毎に交換する。

これら特別なメンテナンスは、メーカー指定のサービス業者がメンテナンスを行います。

保証とアフターサービス

1.保証書

- 本書に添付しています。
- 保証書は「お買い上げ日」の記入をお確かめのうえ、お受け取りください。
- 保証書をよくお読みになり大切に保管してください。

2.修理を依頼される時

取扱書の内容をお確かめいただき、コーヒーマシンが直らないときは電源プラグを抜いてから当社に修理についてご相談ください。

●保証期間中の修理

保証書の規定により無料修理致します。当社までお申し出ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。当社にご相談ください。

3.アフターサービスについてご不明な場合

- アフターサービスについてのご質問等ありましたら、当社にお問合せください。

アフターサービスを依頼される場合は次の内容をご連絡ください。

- | | |
|-------|-----------------------|
| ●お名前 | ●商品名 カリマリ Cento50シリーズ |
| ●ご住所 | ●製造番号 |
| ●電話番号 | ●故障の症状、状況(出来るだけ詳しく) |

修理相談窓口 ブルーマチックジャパン株式会社 横浜:(045)947-0804 大阪:(06)6531-1333

受付時間 : 365日 24時間 ※夜間については、受付業務のみとさせていただきます。

ご使用の際の注意事項

コーヒーマシンを常に最適な状態に保つために、定期的な清掃作業を行ってください。

清掃作業は取扱説明書に従い、コーヒー系統、ミルク系統、抽出口の洗浄をそれぞれ適切に行なってください。

一日の営業開始前及び終了後は取扱説明書に従い自動洗浄を行ってください。

ミルク系統の洗浄には、専用のミルククリーナーを使って洗浄を行なってください。

ミルククリーナー(液体)を使用するときには直接手や肌に接触しないようにして下さい。

コーヒー系統の洗浄には専用の清掃用ディスクを使って洗浄を行なってください。

洗浄剤は小さなお子様の手に触れない場所に保管して下さい。

必ず冷たい新鮮な硬度の低い水道水をお使い下さい。

また、ミネラル成分の多い水を使うとマシン内部にスケールが発生しマシンの性能を損なう恐れがあります。

使用中に、取扱説明書に書かれていない不具合が発生したら直ちに当社へご連絡下さい。

セミオートエスプレッソマシン 保証書

形 名	カリマリ Cento50シリーズ
製 品 番 号	
製 造 番 号	
保 証 期 間	お買い上げの日より1年間
お買い上げ日	年 月 日
お客様お名前	
ご 住 所	
電 話 番 号	

無料修理規定

本書は、本書記載内容で、無料修理をさせていただくことをお約束するものです。

1 取扱説明書、本体添付のラベル等の注意に従った使用状況で保証期間内に万一故障をした場合には故障箇所の無料修理を行いません。

2 保証期間内に故障をして無料修理を受ける場合には販売店もしくはサービスセンターに連絡して下さい。

3 次のような場合は、保証期間内でも有償修理になります。

- (1) 使用上の誤り、取扱説明書に記載してあるとおりの使用をしなかった場合。
- (2) 取扱説明書に記載されている日常のお手入れを怠ったことが原因で発生した故障や損傷。
- (3) 使用する水質、水圧等の不良が原因で発生した故障や損傷。
- (4) 販売店以外で修理、改造などを行なったことが原因で発生した故障と損傷。
- (5) 消耗品、付属品等の消耗による交換及び交換作業。
- (6) 火災、水害、地震などの天災地変、塩害、公害、異常電圧、過電流など外部要因による故障及び損傷。
- (7) 落下、転倒、水濡れ、打撲や本体内部の基盤が破損変形したことなどによる故障及び損傷。
- (8) 車両などに搭載して使用したり、移動後に発生した故障及び損傷。
- (9) 保証書の提示が無い場合、および保証書記載の製造番号と製品の製造番号が異なる場合。
- (10) 保証書の記載内容が変更、書き換えられている場合。

4 本保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.

5 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

*この保証書は本書に明示した期間、条件の下において無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。ご不明な場合は当社にお問合せ下さい。

*保証期間は、お買い上げの日より1年間を過ぎた場合は無効となります。

*お客様にご記入いただいた保証書の内容を、修理・サービスに利用させていただく場合がございますのでご了承ください。

*本製品の使用により、または故障により生じた直接・間接の損害については保証対象外とします。

輸入代理店

ブルーマチックジャパン株式会社

神奈川県横浜市都筑区仲町台5-4-22

(045)947-0800 (代表)



ブルーマチックジャパン（株）

EDITION 20150210